

08 かわらぶき



瓦1400年の歴史、現代につづく技の妙技

「粘土瓦」は、1400年の歴史のある屋根材で、“耐久性”“耐熱性”“強度”に優れ、環境にとってもやさしい屋根材です。住宅を風雨などから守る大切な屋根。その屋根の瓦を葺く技術「かわらぶき」は、普段はあまり見られる機会がありません。身近で見られる匠の技を、お見逃しなくご覧ください。



たがね
瓦を削るために使う道具

競技概要

競技時間 10時間45分(1日目6時間30分/2日目4時間15分)

本年度は、4面を最大に使用する納まりで、3面は万十軒瓦での納まりでシンプルにしているが、1面はすがる部を作り一文字軒瓦、袖瓦、一文字袖角瓦をいかに美しく収めるか、四隅の鬼瓦部の内二ヶ所を熨斗端瓦(のしはしがわら)と無地巴(むじどもえ)での工夫した納め、又頂点である四つ又部をいかに華麗に納めるかを問う課題となります。



第30回 競技課題

Point

方形架台のうち、すがる部がある一面は万十軒瓦ではなく、あえて一文字軒瓦を使用するため、袖瓦、一文字袖角瓦との取り合いの美しさが見どころとなります。また、方形屋根の頂点の華麗な収まりや、四隅の隅部の無地巴の納まりなども、各選手の創意と工夫があらわれる見どころポイントとなるでしょう。



鬼瓦
厄除と装飾を目的に
設置される瓦

